

2021年度事業報告

(2021年4月1日から2022年3月31日)

1 学術研究会、学術講演会の開催

(1) 学術大会について

第62回日本神経学会学術大会を下記のとおり開催した。新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、現地開催とWEBシステム利用のハイブリッド方式による開催とした。

- ・大会長 高橋良輔 京都大学大学院医学研究科臨床神経学教授
副大会長 山田正仁 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科脳老化・神経病態学（脳神経内科学）教授))
- ・会 期 2021年5月19日（水）から5月22日（水）までの4日間
- ・場 所 国立京都国際会館

(2) 学術大会運営について

- ① 第66回学術大会大会長を選出した。
望月秀樹 大阪大学大学院医学系研究科神経内科学教授
- ② 第63回学術大会を東京都で開催するため、その準備を進めた。
・大会長 服部信孝 順天堂大学大学院医研究科神経学教授

(3) 地方会開催

各地方会を次のように開催した。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため WEB 利用による開催も行った。

北海道地方会（2回）、東北地方会（2回）、関東・甲信越地方会（4回）、東海・北陸地方会（3回）、近畿地方会（3回）、中国・四国地方会（1回）、九州地方会（3回）

2 学会誌の発行

(1) 臨床神経学の発行

機関誌「臨床神経学」61巻4号～62巻3号の全てを通常号発行した。また、学術大会抄録はサプリメントとして発行した。いずれも電子ジャーナルである。

(2) 英文機関誌の発行

英文機関誌「Neurology and Clinical Neuroscience」(Volume 9, Issue 3～Volume 10, Issue 2) を、隔月ごとに電子ジャーナルで発行した。

(3) 診療ガイドライン作成

- ① 慢性頭痛診療ガイドライン2021を出版した。
- ② 神経疾患の遺伝子診断ガイドライン2009、重症筋無力症診療ガイドライン2014、慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー、多巣性運動ニューロパチー診療ガイドライン2013、ギラン・バレー症候群、フィッシャー症候群診療ガイドライン2013、筋萎縮性側索硬化症診療ガイドライン2013および多発性硬化症・視神経脊髄炎診療ガイドラインの改訂

版作成を進めた。

- ③ 2018年度に出版したてんかん診療ガイドライン2018の英文版を作成して学会HPで公開した。

3 啓発活動

(1) 広報活動

- ① 会員向けのニュースレターを発行した(第7号)。
- ② 本学会認定施設で行われる神経内科を紹介する説明会やセミナー等の企画を、本学会ホームページで紹介する事業を実施した。
- ③ レジナビフェア(リアル開催)出展については中止したが、レジナビフェアオンラインに変更し、関東甲信越と東海で参加した。
- ④ サマーキャンプに代わる事業として「医学生・研修医のための脳神経内科ウェブセミナー」を6月と2月に開催した。

(2) 医学生を対象とした学術大会への参加支援について

医学生を対象とした学術大会への参加支援(交通費補助)については、コロナウイルス感染防止の観点から積極的な募集をしなかった。支援対象医学生は取り下げもあり0名であった。

(3) 脳神経内科フォーラムの活動支援

昨年度に引き続き、脳神経内科フォーラムが企画・実施する脳神経内科と神経疾患を広報する活動を支援した。

4 研究奨励

日本神経学会賞を選考した。

○ 学術研究部門

樋口 雄二郎 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科神経病学講座脳神経内科・老年病学
「遺伝性ニューロパチーの遺伝学的研究」

島田 斉 新潟大学脳研究所統合脳機能研究センター臨床機能脳神経学分野
「神経変性疾患の病態解明と創薬過程促進に資する脳病態イメージング研究」

○ 診療/教育部門

園生 雅弘 帝京大学医学部神経内科学講座
「神経筋電気診断学と神経症候学についての教育」

5 研究推進

(1) 研究支援

ノバルテスファーマの助成を受け難治性神経疾患基礎研究支援を3施設に対して行った。

(2) 産官学連携について

- ① 「脳神経内科医のためのバイオインフォマテック・ハンズオン」2021を2022年1月10日(月・祝)にハイブリット形式により開催した。
- ② 産官学連携による若手創薬研修会第3回「神経疾患に対する創薬トランスレーショナルリ

サーチを学ぶ」を２０２２年１月１４日（金）にWEBシステム利用により開催した。

- ③ 新規事業として計画した「研究シーズの企業導出サポート事業」では、研究シーズ企業導出助成金を３名に交付するとともに、２０２２年２月２５日（金）にシーズマッチングフォーラムを開催した。

（３）他団体との連携協力

神経内科学・脳科学に関する研究を推進するために、日本学術会議、日本医学会、日本脳科学関連学会連合、そして関連する他学会等と連携・協力した。

６ 専門医及び教育施設の認定

（１）専門医

- ① 第４７回専門医試験の日程を延期したうえで、一次試験は東京と京都の２会場で開催し、二次面接試験はWEBにて実施した。

- ・第一次試験 ２０２２年２月１３日（日）
東京都（ベルサール神田）、京都市（国立京都国際会館）
- ・第二次試験 ２０２２年３月２１日（月・祝）
東京都（試験本部；TKP品川カンファレンスセンター）
新規認定者数は、２３９人である。

- ② 第２７回専門医認定更新を実施した。
２０２１年度末専門医数は、６，４３０人である。

（２）教育施設

- ① 施設認定更新
２０２２年４月１日から認定する施設認定について、認定手続き（新規及び更新）を実施した。
２０２１年度末認定施設数は、８１１施設である。
- ② 指導医認定
２０２２年４月１日から認定する指導医認定を実施した。また、２０２２年３月３１日で認定期間が満了となる指導医の認定更新を実施した。
２０２１年度末指導医数は、３，２９９人である。
- ③ 特別連携施設制度について
指導医あるいは専門医が在勤していない小規模施設において、教育施設として連携することによって専門医研修ができる特別連携施設制度は２０２１年度末で３施設である。

（３）専門医制度

- ① 脳神経内科領域専門医制度検討委員会の設置を日本専門医機構に申請し、委員会の名称、規約、構成員について承認を受けた。
- ② この承認を受けた脳神経内科領域専門医制度検討委員会においてサブスペシャリティ領域専門研修制度整備基準を検討・審議後、日本専門医機構に申請をし、２０２２年２月２２日に日本専門医機構から、承認を受けた。
- ③ 神経内科専門医の基本領域化については、他学会の関係者と協議など理解を求める活動を行った。

7 会員を対象とした教育及び啓発活動

(1) 生涯教育講演会

- ① 第62回学術大会時に第18回生涯教育セミナー（レクチャー）をWEBシステム併用で開催した。

参加者数は、1342人であった。

- ② 以下の支部で生涯教育講演会を開催した。

北海道支部、東北支部、関東・甲信越支部、東海・北陸支部、近畿支部、中国・四国支部、九州・沖縄支部。

(2) 専門医育成教育事業

- ① 第62回学術大会時に、第17回専門医育成教育セミナーをWEBシステム併用で開催した。

参加者数は、309人であった。

なお、2021年12月12日（日）に千葉県幕張会場で予定していた第18回専門医育成教育セミナーは、新型コロナウイルス感染防止のため中止した。

(3) 特別教育研修会脳卒中コース（第4回）を、2021年9月5日（日）WEBシステムによる開催した。

参加者数は、984人であった。

(4) 教育コンテンツ配信事業

① コンテンツ制作

- ・ GSK 教育事業助成制度の資金をもとに、教育コンテンツ作成を進め「運動失調症」を完成した。その他、神経救急など3本について引き続き制作を進めた。
- ・ ノバルテスファーマ（株）の教育助成事業を申請し採択された（2020年度から2年間）。今年度は62回学術大会時の生涯教育、専門医育成セミナーの講演を収録してコンテンツ制作を行うとともに、新規動画制作の企画を進めた。

② e-ラーニングシステムの整備と運用

専門医単位を取得できるe-ラーニングシステムを整備して、運用を開始した。

④ 画像システムの整備

静止画像を教育用に活用する画像システムの運用を開始した。

(5) Excellent Teacher 表彰事業の実施

学会主催の教育セミナーの講師や教育用動画制作で教育活動に貢献した会員1名を表彰した。

(6) 会員の研修支援事業の実施

海外研修（留学）5名の支援を実施した。国内研修は1名の支援を実施した。

(7) 学術大会時の教育プログラムについて

第63回学術大会時の教育プログラムを企画した。同大会で実施予定である。

(8) その他

第62回学術大会時に予定していたメディカルスタッフ教育セミナーのうち、セミナー2「神経伝導検査セミナー」は、新型コロナウイルスの感染防止措置をとることが困難であったため、中止した。

セミナー1「認知症疾患を知るー適切なケア・リハビリテーションのためにー」は、会場での講演は中止としたが、セミナー参加登録者に対して事前録画の講演動画配信を行った。

8 診療向上のための活動

(1) 診療報酬改訂への取り組み

ランバート・イートン筋無力症候群の診断を目的とした抗P/Q型VGCC抗体測定の診療報酬算定について要望を行い、2022年改定前に早期承認された。

(2) 新薬承認審査の促進等に関する要望活動

神経疾患患者に対する医療の質の向上を図る一環として、未承認薬、新薬承認審査の促進に関する要望活動を行った。55年通知による多発筋炎・皮膚筋炎に対するメトトレキサートの使用、視神経脊髄炎へのアザチオプリンの使用とNUDT15遺伝子測定および心アミロイドーシスに対するヒドロキシメチレンジホスホン酸テクネチウムが承認された。

(3) 小児ー成人移行期医療について

小児ー成人移行医療対策特別委員会は神経内科領域における委員会活動現状を臨床神経学に掲載した。また、小児から成人診療科への意向を語る会をWEB開催し、小児診療科と成人診療との連携推進を図った。

9 国際協力事業

新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大により、国際協力事業を中止した。

10 その他の事業

(1) 災害時医療支援の充実

各都道府県の神経難病ネットワーク長、神経難病リエゾンとの連絡協議会を2月に開催した。

(2) 脳神経内科医のための開業指南セミナーを2022年2月20日にWEB開催をした。

(3) 新型コロナウイルス感染防止対策について

① COVID-19ワクチンに関する本学会の見解をまとめ学会HPで公表した。

② その他

新型コロナウイルスの感染防止に必要な措置を講じた。主な措置は次のとおりである。

イ 学術大会、地方会、教育事業、広報活動などの学会活動について、必要に応じて運営方法、開催時期の変更、会場での感染防止などの対策をとった。また、感染防止対策が難しい生涯教育セミナー（ハンズオン）など一部の事業については、開催を中止した。

ロ 社員総会、理事会、各種委員会など学会運営に必要な諸会議は、必要に応じてWEBシステムを利用して開催した。

1 1 一般社団法人としての運営

(1) 理事選挙の実施

2022年社員総会で選出される理事の選挙を2022年2月25日から3月10日まで行い3月13日に開票し、3月14日に選挙結果を公示した。

(2) 日本医学会および日本医学会連合との連携

日本医学会と日本医学会連合の活動に協力した。